吉田地区コミュニティプラン

「思いやり・助け合い・やすらぎ」のまちづくり

令和8年度～令和17年度（10年間）

01 コミュニティプラン策定にあたって

吉田地区では、これまで町内会・自治会をはじめとする地域団体や中心となり、住民相互の精神や福祉の向上、防災・防犯活動、教育の健全育成など、様々な分野において地域の一体的取り組みを進めてきました。

一方で、近年は少子高齢化の進行やライフスタイルの多様化により、町内会加入率の低下、担い手不足、子ども等に係わり地域活動への参加減少など、地域コミュニティを取り巻く環境は大きく変化しています。従来と同じ方法や枠組では、これまでの活動を維持することが難しくなっている状況にあります。

吉田地区コミュニティプランは、令和2年に策定したコミュニティプランを、地域の課題（ふれあい支え合い、防災など）に加え、住み心地・暮らしやすさを向上し取り組むまちづくりとしました。しかし、その後の自治会活動の変化や地域を取り巻く環境の変化により、これまでの取組を進めるため、これまでの活動を見直して整理する必要があります。

吉田地区における「コミュニティプラン」とは、地域の課題（ふれあい支え合い、防災など）に加え、住み心地・暮らしやすさを向上し取り組むまちづくりとしました。しかし、その後の自治会活動の変化や地域を取り巻く環境の変化により、これまでの取組を進めるため、これまでの活動を見直して整理する必要があります。

本プランの目的

こうした変化を踏まえ、本プランは、これまで取り組まれた地域のつながりや活動を大切にしながら、現状に即した取り組みを進めていくため、**地域住民や関係団体が課題や将来像を共有し、どのように取り組むかを明らかにすること**を目的として策定します。

本プランでは、地域の現状を踏まえ、町内会・自治会をはじめとする地域活動の担い手の確保や、地域の安全・安心の確保、暮らしやすさの向上など、地域が抱える課題を整理しました。また、これらの課題を解決し、地域住民や関係団体が将来像を共有しながら、地域全体で取り組んでいくための基本的な考え方や方向性を示しています。

吉田地区に暮らす誰もが、安心して住み続けることができる地域であるよう、本プランを地域づくりの指針として活用するとともに、地域住民や関係団体、行政が連携・協働しながら、持続可能な地域づくりを進めていきます。

02 吉田地区の現状と課題

地区の概要

位置：糸沢市東部

人口：11,234人（令和7年現在）

世帯数：4,479世帯

特徴：住宅地を中心に商業施設や公共施設が点在

これまで吉田地区では、町内会・自治会を中心とした地域活動が行われてきました。各種行事や防災・防犯活動、福祉活動などを通じて、住民同士のつながりが育まれてきました。しかし近年、自治組織の低下とともに、地域を取り巻く状況にも大きな変化が生じています。

主な課題

町内会・自治会加入率の低下

集合住宅の増加や生活様式の多様化により、町内会に加入しない世帯が増加しており、地域の支え合いや防災・防犯活動の担い手の確保が難しくなっています。

高齢化と担い手不足

役員や各種行事の運営を担う世代の高齢化が進んでおり、負担の偏りや、一部の方に負担が集中する状況が続いています。今後も、担い手の減少が進むことが見込まれ、地域活動の維持に大きな影響を与えるおそれがあります。

若い世代の参加減少

学校や家庭、仕事などの影響により、地域行事や活動に参加する機会が減少しています。世代間の交流が少なくなっていることから、地域のつながりが薄れることも、高齢化や地域活動の担い手不足に大きな影響を与えています。

吉田地区の強み

一方で、地域には次のような強みがあります。

「防災・ふれあい」を大切にする風土

吉田地区では、町内会・自治会を中心に、防災訓練や防災倉庫の整備など、日頃から防災・防犯に関する取組が行われてきました。また、地域のつながりを大切にする意識が根強く、災害時や困りごとがあったときに、住民同士で助け合う風土があります。

高齢者や子育て世代が集まる場所

吉田地区には、公民館や図書館、児童館、公園などが整備されており、高齢者や子育て世代が集まる場所があります。また、地域の中心部には、商業施設や公共施設が集まっており、日常の買い物や通院などの利便性が高い地区です。

地域活動を支える人材

地域には、自治会長や民生委員・児童委員、PTA役員など、地域活動を支える人材がいます。また、地域行事や防災訓練などを通じて、住民同士のつながりが育まれてきました。

03 コミュニティプランの基本的な考え方

吉田地区のコミュニティプランでは、これまで地域が築き上げてきた活動や人とのつながりを大切にしながら、時代や地域の変化に適応した取り組みを進めていくことが重要であると考えます。

基本理念

「防災・ふれあい・やさしさ」を大切にし、誰もが安心して暮らせる地域づくり

住民一人ひとりが地域との関わりを持ち、安心して暮らし続けられる吉田地区を目指すものです。次の4点を基本方針として位置付けます。

1

無理のない範囲で参加した地域活動

地域活動は、継続することが重要です。一部の人に負担が集中するのではなく、できる範囲で無理のない活動参加を増やすことで、長く続けられる地域を目指します。将来の担い手についても、無理や負担を前提にすることで離れることを防ぎ、地域に住み続けられる環境を整えます。

2

世代を超えたつながりの創出

高齢者、子育て世代、子ども等という世代ごとに活動が分断されるのではなく、世代間の交流を積極的に進めることで、地域全体のつながりを深めます。世代間の交流を通じて、お互いを理解する地域の基盤をつくることを目指します。

3

これまでの地域を活かした市民型の地域づくり

本プランは、すべてを新たに始めることを目的とするものではありません。これまでの町内会・自治会や防災・防犯活動、福祉活動などの取組を、これからの地域に合った形へ見直すことで、「市民型」の地域づくりを進めます。また、地域住民や団体、行政などが、お互いの役割を理解しあい、連携・協働しながら地域づくりを進めていきます。

これらの基本的な考え方を踏まえ、吉田地区に暮らすすべての人が地域の一員として活躍を期待し、支え合いながら暮らせる地域コミュニティの実現を目指しています。

04 吉田地区が目指す将来像

吉田地区では、これまで培ってきた人とのつながりを大切にしながら、誰もが安心して暮らし続けられる地域であることを目指したいと考えています。

今後とも吉田地区が、次のような姿を共有した地域となっていることを目指します。

顔の見える地域が当たりまえになっている地域

町内会・自治会の加入率は低下傾向にあり、地域活動の参加者や担い手の不足が課題となっています。

一方で、日常的に顔を合わせ、あいさつや声かけ、ちょっとした助け合いなどが自然に行われている地域を目指します。

世代を問わず、誰もが気軽に参加できる地域

高齢者だけでなく、子育て世代や若い世代も含め、誰もが気軽に参加できる地域を目指します。

そのため、無理のない範囲で参加できる活動や、参加しやすい仕組みづくりを進めます。

支え合いが当たりまえにされている地域

防災・防犯、福祉など、身の回りにある活動を支え合い、地域全体で取り組んでいる地域を目指します。

そのため、地域住民や団体、行政などが連携・協働しながら、地域の課題を解決していく体制づくりを進めます。

無理なく持続的取り組み運営が行われている地域

担い手不足を前提にしながら、活動内容や体制を工夫することで、無理なく継続できる地域運営を目指します。

また、地域の取組状況を、適切に見直しながら、持続的に取り組んでいける地域を目指します。

吉田地区が、住民一人ひとりにとって**「住み続けたい」「関わり続けたい」**と思われる地域であり続けることを目標に、地域全体でこの理想像を共有し、実現に向けた取組を進めます。

05 重点的に取り組む課題と基本的な方向性

吉田地区の現状やこれまでの取組を踏まえ、今後より効果的に取り組むべき課題を整理し、それぞれについて基本的な方向性を示します。

課題1 町内会・自治会加入率の低下への対応

現状：近年、町内会・自治会への加入率は低下傾向にあり、地域活動の基盤そのものが弱くなりつつあります。加入しない理由として、活動内容が分からないことや参加機会の不足、地域との関わり方が見えにくいことなどが挙げられます。

方向性：今後は、町内会・自治会の活動内容や費用の使い方をわかりやすくするとともに、「加入しないからよくない」ではなく、「加入したくなる」「加入してよかった」と思える地域づくりを進めます。

課題2 高齢化による担い手不足への対応

現状：高齢化の進行により、地域活動を支える人材の不足が深刻になっています。これまで同じ役割を長く担ってきた方に負担が集中しており、特定の人に負担が偏らない仕組みづくりが必要です。

方向性：今後は、役員や行事運営の負担を軽減するとともに、一人ひとりの活動参加の機会を増やすことで、誰もが無理なく参加できる地域を目指します。

課題3 子ども・若者世代の地域参加の促進

現状：子どもや若い世代の地域活動への参加が減少しており、将来の地域の担い手不足が大きな課題となっています。一方で、学校行事や地域イベントなどを通じて、地域に関心を持つきっかけは存在しています。

方向性：今後は、スポーツ・文化・イベントなどを通じて、楽しみながら世代の上下関係を意識することなく、参加しやすい環境を整えていきます。また、学校や地域と連携しながら、「面白そうだから」「友達と一緒だから」参加したくなる仕掛けづくりを進めます。

課題4 防災・防犯を軸にした安心・安全な地域づくり

現状：防災・防犯は、すべての世代に共通する重要な課題であり、地域コミュニティの存在意義が最も発揮される分野でもあります。日頃からの住民同士のつながりが、災害時や緊急時の助け合いの基盤となります。

方向性：今後は、防災訓練や防犯活動を通じて、地域の負担の偏りを軽減しながら、誰もが参加しやすい仕組みづくりを進めるとともに、世代間交流との連携を強化し、取組の充実を図ります。

課題5 活動の見える化と情報共有の充実

現状：地域活動の内容や成果が十分に知られていないため、参加意欲の低下につながっています。広報紙や回覧、ポスターなどの情報発信の方法を見直す必要があります。

方向性：今後は、活動の内容や成果を「見える化」することで、地域での理解や共感を深めます。

06 重点取組と今後の具体的な進め方

本プランで整理した課題を踏まえ、吉田地区では今後、以下の取組を重点事項として進めていきます。なお、すべてを一度に実施するのではなく、地域の状況や担い手の負担を考慮しながら、段階的かつ柔軟に取り組むものとします。

町内会・自治会活動の充実と参加しやすい仕組みづくり

町内会・自治会は、吉田地区における地域活動を支える基盤となる存在です。その活動内容や運営方法について、役員の負担が特定の人に偏っている点や、参加者にとって魅力を感じにくい点が課題となっています。今後は、活動内容の整理や簡素化、参加方法の多様化を進めるとともに、加入者・未加入者を問わず地域に関わりを持ちやすい環境づくりを進めます。また、町内会活動の説明や情報発信を分かりやすくすることで、地域住民の理解と参加につなげます。

誰もが参加しやすい地域活動の環境

地域活動の負担が特定の人や世代に偏ることで、活動の継続が難しくなっています。無理なく参加できる環境づくりが必要です。具体的には、参加する時間や期間を柔軟にすることや、1人1役ではなく複数人で役割を分担する取組などを進めます。また、子育て世代や若い世代が地域活動に参加しやすいように、託児環境の整備や参加方法の工夫などを検討します。

子ども・若者世代の参加のキッカケ活動の創出

将来の地域を担う世代との交流を増やすことで、子どもや若者が自然に地域と関わる機会を創出します。スポーツやイベントや地域行事への参加など、様々な地域活動を通じて、地域に関心を持つきっかけを増やしていきます。また、活動の魅力を感じ参加しやすい環境の整備を進めていきます。

防災・防犯活動を通じた地域のつながり強化

防災・防犯活動は、日常のつながりづくりに最も適した分野です。地域の特徴や課題を把握しながら、訓練や情報発信、見守り活動などを通じて、住民同士の顔の見える関係づくりを進めます。また、活動内容について、実施時間や負担を見直しながら、誰もが参加しやすい仕組みづくりを進めます。

情報発信と活動の「見える化」

地域活動の内容や成果を広く伝えるため、広報紙や回覧、ポスターなどの手法を見直しながら情報発信力を高めます。活動の取組や成果を分かりやすく伝えることで、地域住民の理解と関心を高め、参加のきっかけづくりにつなげます。

07 プランの推進体制と進行管理

本コミュニティプランは、吉田地区における地域づくりを総合的かつ分かりやすく推進するため、現状を見つめ直しながら、不断の取組を行っていく必要があります。

地域を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化、ライフスタイルの変化などにより、今後ますます変わっていくことが予想されます。そのような中において、地域コミュニティの維持や存続を図っていくためには、これまでと同じ取組にとらわれることなく、柔軟な発想で新たな取組にチャレンジしていくことが必要です。

本プランでは、理想を高く掲げることよりも、地域が実際に取り組んで「無理のない地域」を基盤に、これまで続けてきた活動を大切にしながら、必要に応じて見直しを重ねていくことを基本とします。また、地域住民や関係団体、行政が、それぞれの役割を理解しながら、連携・協働して取組を進めていきます。

推進体制の考え方

本プランは、特定の組織や一部の関係者だけで進めるものではなく、地域全体で共有し、実践していくことを基本とします。吉田地区振興会や町内会・自治会、民生委員・児童委員、PTA、学校や関係団体、行政などが連携・協働しながら、それぞれの役割や立場を理解しながら取組を進めます。

また、町内会・自治会をはじめとする地域団体や関係機関との連携を強化し、これまでの活動や交流を最大限に生かし、協力体制の構築を図ります。

進行管理と振り返り

本プランは、策定して終わりとするものではなく、実際の活動を通じて検証し、必要に応じて見直しを行うものとします。特に、この10年間は地域を取り巻く環境の変化が大きいことが予想されるため、柔軟な対応が重要です。

大きな見直しを前提とするのではなく、実際に出てきた小さな課題や意見をもとに、地域に合った形へと育てていくことを目指します。

柔軟な見直しと継続性の確保

社会情勢や地域環境などの変化に応じて、必要に応じて、本プランの内容について、策定時に縛られることなく、地域の実情や住民の意見を踏まえ、見直しを図るものとします。

地域をとりまく状況は、今後ますます変化していくことが予想されます。本プランは、10年間の計画ですが、その間に、地域の課題や住民ニーズが変化することも十分に考えられます。

地域をとりまく状況は、今後ますます変化していくことが予想されます。本プランは、10年間の計画ですが、その間に、地域の課題や住民ニーズが変化することも十分に考えられます。

08 おわりに

本コミュニティプランは、吉田地区に住んでまたは働いている方や地域を愛する皆さんが、現状を見つめ直しながら、今後の地域のあり方を考えるきっかけとして策定いたしました。

地域を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化、ライフスタイルの変化などにより、今後ますます変わっていくことが予想されます。そのような中において、地域コミュニティの維持や存続を図っていくためには、これまでと同じ取組にとらわれることなく、柔軟な発想で新たな取組にチャレンジしていくことが必要です。

本プランでは、理想を高く掲げることよりも、地域が実際に取り組んで「無理のない地域」を基盤に、これまで続けてきた活動を大切にしながら、必要に応じて見直しを重ねていくことを基本とします。また、地域住民や関係団体、行政が、それぞれの役割を理解しながら、連携・協働して取組を進めていきます。

また、町内会・自治会をはじめとする地域団体や関係機関との連携を強化し、これまでの活動や交流を最大限に生かし、協力体制の構築を図ります。

吉田地区に暮らすすべての人が、安心して住み続けることができる地域であるよう、本プランを地域づくりの指針として活用するとともに、関係団体や行政、地域住民が連携・協働しながら、持続可能な地域づくりを進めていきます。

本プランは、策定して終わりとするものではなく、実際の活動を通じて検証し、必要に応じて見直しを行うものとします。特に、この10年間は地域を取り巻く環境の変化が大きいことが予想されるため、柔軟な対応が重要です。

大きな見直しを前提とするのではなく、実際に出てきた小さな課題や意見をもとに、地域に合った形へと育てていくことを目指します。

地域をとりまく状況は、今後ますます変化していくことが予想されます。本プランは、10年間の計画ですが、その間に、地域の課題や住民ニーズが変化することも十分に考えられます。

吉田地区に暮らすすべての人が、安心して住み続けることができる地域であるよう、本プランを地域づくりの指針として活用するとともに、関係団体や行政、地域住民が連携・協働しながら、持続可能な地域づくりを進めていきます。

制作：吉田地区自治振興委員会
策定：令和8年度

© 2025 吉田地区自治振興委員会
本プランは令和8年度に策定された吉田地区の地域コミュニティプランです。